

スキー場をはじめとしたレジャー施設における感染症対策と情報発信の重要性

～コロナ禍におけるスキーヤー・スノーボーダーへのアンケートと岩手県内のスキー場に関する調査からわかったこと～

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染が拡大するなか迎えた、2020～21のウィンターシーズン。新型コロナウイルスは、スキーヤー・スノーボーダーの意向に影響を与え、スキー場も安心して利用してもらうために感染症対策を余儀なくされたろう。そこで、コロナ禍におけるスキーヤー・スノーボーダーの意向についてオンライン上でアンケート調査を行った。**調査の結果、コロナ禍におけるスキーヤー・スノーボーダー意向や、利用者がどのような感染症対策を望んでいるかがわかった。**利用者に安心して利用してもらうには、もちろん感染症対策も重要ではあるが、それ以上に**対策を行っているという事実を発信する「情報発信」が重要**であると考えます。

【調査概要】

ターゲット : 全国のスキーヤー・スノーボーダーなどのスキー場を利用する人

回答人数 : 176人

調査期間 : 2021年01月13日～01月29日

方法 : インターネット調査

【調査サマリー】

TOPIC① 今シーズン、スキー場に行くか決めていない・行かないと回答したのは4割弱

今シーズン、新型コロナウイルス(COVID-19)が無かったと仮定して、スキー場に行くかと回答した元々スキーヤー・スノーボーダーの人たちと、決めていないと回答した人を合わせた143人に、新型コロナウイルスの感染が拡大する中でスキー場に行くかどうかを聞いたところ、63.6%は行くもしくは行った、16.8%は行かない、19.6%は決めていないと回答した。

TOPIC② スキー場に行くか決めていない・行かないと回答した人の内、新型コロナウイルスと関係していると回答したのが8割弱

今シーズン今シーズン、スキー場に行くか決めていない・行かないと回答した人の内、その意向が新型コロナウイルス(COVID-19)と関係しているかと聞いたところ、76.9%が関係ある、23.1%が関係ないと回答した。また、関係あると回答した人に対して、どこでの感染が怖いかを聞いたところ、55.0%がレストハウスやトイレなどの屋内での感染が怖いと回答した他、23.0%がその他と回答し、詳細を記述にて回答してくれた。その他の回答の中で最も多かったのは家庭内感染や誹謗中傷など感染してしまった後が怖いというものだった。

TOPIC③ スキー場は感染症対策を行っている

アンケート調査と並行し**岩手県内のスキー場**の Web 調査を行った。そうしたところ、大規模なスキー場に関してはしっかり感染症対策を行っており、その情報がホームページ上にしっかりと記載されていた。小規模なスキー場に関しては、しっかり記載がある場合もあれば感染症対策を行っているはずなのに全く記載のない場合もあった。

結果

新型コロナウイルス(COVID-19)はスキーヤー・スノーボーダーの意向に影響を与えていると考えられる。今シーズンスキー場を訪れなかったひとたちのためにも、引き続き感染症対策をしっかりと行い、その情報を発信することで、スキーヤー・スノーボーダー以外の人たちにもスキー場はしっかり感染症対策で来ているという印象を持たせることで、安心して利用してもらえるようになるだろうと考える。

【調査レポート】

レポート本文はこちらから

門外銀河オフィシャルサイト リリースページ <https://kadogin1030.wixsite.com/website/release>

【本プレスリリースに関するお問い合わせ】

大正大学地域創生学部 2 年

門外銀河 岩手県久慈市出身

TEL 090-6222-5609

メール kadogin1030@gmail.com